

ディパーテッド

2007(平成19)年1月11日鑑賞(試写会・大阪厚生年金会館芸術ホール)

★★★★



監督=マーティン・スコセッシ/出演=レオナルド・ディカプリオ/マット・デイモン/ジャック・ニコルソン/ヴェラ・ファーミガ/マーティン・シーン/マーク・ウォールバーグ/レイ・ウィンストン/アレック・ボールドウィン/アンソニー・アンダーソン/ケヴィン・コリガン/ジェームズ・バッジ・デール/デヴィッド・パトリック・オハラ/マーク・ロルストン/ロバート・ウォールバーグ/クリステン・ダルトン/J・C・マッケンジー(ワーナー・ブラザーズ映画配給/2006年アメリカ映画/152分)

……レオナルド・ディカプリオとマット・デイモンの対決、そしてジャック・ニコルソンの存在感は、映画全体にスリルと緊張感を与え、重厚で濃密なドラマを完成させているから、2時間32分はあっという間に……。ただ、キーウーマンとなる精神科の女医さんの魅力は香港版の方が明らかに上……。？ マーティン・スコセッシ監督らしいラスト20分の結末のつけ方は衝撃的だが、あまりにアメリカ的すぎるかも……。『ギャング・オブ・ニューヨーク』『アビエイター』に続く3度目のアカデミー賞への挑戦は、残念ながら今回もあと一歩……。こんな私の大胆予想が外れるといいのだが……。

映画化権の買い取り価格は How Much……？

この映画は『ディパーテッド』(死者たち)というタイトルになっているが、近時の香港フィルム・ノワール映画として大成功した劉偉強監督の『インファナル・アフェア』3部作のハリウッドリメイク版。当初この映画化に意欲を燃やしたのはブラッド・ピットだったが、完成した映画では彼はプロデューサーにまわり、①マフィアに潜入した警察官ビリー・コスティガン役(香港版ではヤン役)をレオナルド・ディカプリオ(香港版ではトニー・レオン)が、②警察に潜入したマフィアの男コリン・サリバン役(香港版ではラウ役)をマット・デイモン(香港版では劉^{アンディ・ラウ}徳華)が、そして③マフィアのボス、フランク・コストロ役

(香港版ではサム役)をジャック・ニコルソン(香港版ではエリック・ツァン)が、それぞれ演ずることになった。

松坂大輔投手がアメリカ大リーグのレッドソックスへポスティング移籍するについて、約120億円が支払われ、さらにサッカーのベッカムがアメリカのプロリーグに移籍するについて、約300億円が支払われたことに全世界がビックリしている。すると、あれだけ大ヒットした『インファナル・アフェア』3部作の映画化権の買い取り価格はHow Much……?

ケリー・チャンvs.ヴェラ・ファーミガは明らかに香港版が上……?

本作は大金をはたいてハリウッドがリメイク権を買い取ったものだから、登場人物のキャラは基本的に香港版と同じ……。そこで注目は、ビリーとコリンの両方から愛されるおいしい役(?)である精神科の女医マドリンだが、香港版ではケリー・チャンが演じたリーの役をハリウッド版では私の全然知らない女優ヴェラ・ファーミガが演じている。言うまでもなく、ケリー・チャンは『冷静と情熱のあいだ』(01年)をはじめとする数々の映画で日本人もよく知っている美人女優。そんなイメージがあるだけにレオナルド・ディカプリオ、マット・デイモン、ジャック・ニコルソンという3大俳優に名前負けしなだけの美人で著名な女優を、この大切な役柄に起用してほしかったと思うのだが……。

ここでもアイルランド系の差別が……

ニューヨークを舞台とした『ギャング・オブ・ニューヨーク』では、アイルランド系移民の差別が大きなテーマだったが、マサチューセッツ州ボストンの南部にある通称“サウシー”と呼ばれる貧困と暴力のまちを舞台としたこの『ディパーテッド』でも、マフィアの姿を描くについてはアイルランド系移民の差別が大きなテーマになっている。すなわち、ビリーの父親や親戚はもともとアイルランド系移民として大きな差別を受けてきた犯罪者の系譜……? したがって、ビリーが警察官を目指した動機にもさまざまな複雑なものが……。

そんなビリーだからこそ、やっと一人前の警察官として巣立った今、マフィアへの潜入警察官に最適とクイーンズ警部(マーティン・シーン)とディグナム刑

事（マーク・ウォールバーグ）に判断されたわけだ。そこから、ビリーの苦難の道が始まるのだが、今やしっかりとマフィアのボス、コストロの片腕的存在となっているビリーの心の中は複雑なはず……。

コリンが警察官を志したのは……？

他方、同じくボストン南部の犯罪渦巻くまちに生まれ、幼い頃から貧困と闘ってきたコリンは、なぜかマフィアのボス、コストロに育てられて大きくなった。そんなコリンだから、子供の頃からよく機転がきく賢い少年だったよう……。そこでコリンが警察学校を志したのはなぜ……。そして、それをコストロが応援したのは何のため……？

このように、その動機においてはかなりヤバイものがあるが、コリンが人一倍の努力をして立派に警察学校を卒業したのは事実だし、すぐにエラービー警部（アレック・ボールドウィン）率いるエリート集団「SIU」に配属されたのも立派なもの。

ひどい言葉遣いと卑猥な演出もハリウッダ的……？

どこの国にもスラング（俗語）があるが、何ゴトにもはっきりとモノを言うアメリカ人（？）は、スラングにおいても露骨。ちなみに、「Fuck you」という言い回しは、いろいろなケースで、いろいろなバリエーションで使われる最も有名なスラング……。

この映画は、ボストン南部の、暴力と貧困が渦巻くまちが舞台だから、登場するセリフにはそんなスラングが満載……。また、マフィアのボスであるコストロは用心深くその権力の座に君臨しているが、女好きにかけては超がつくほどの精力家（？）のようで、スクリーン上には再三いろいろな面白いセリフやシーンが登場する。昨年大晦日の『紅白歌合戦』では、DJ OZMA が歌った際の「裸騒動」が大問題となったが、この『ディパーテッド』では、映画の後半、映画館の中のシーンでコストロがいきなりビリーに対して示す行動がそれと同様の抗議を受けそうなもの。このシーンはジャック・ニコルソンの提案で採用されたいが、ひょっとしてこれがこの映画のマイナスポイントになるかも……？

人を騙し続けるのはホントに大変……

性善説に立つか性悪説に立つかは、何ゴトにおいても究極の選択。しかし私が思うに、人間の本質を分析する別の視点として、人間は本来ウソをつく動物か否かという視点がある。その答えは一般的には Yes だろうが、この映画を観ていると、人間がウソをつき、人を騙し続けるのはホントに大変だということがよくわかる。若くて優秀そして責任感に溢れたビリーとコリンだからこそ、何年間も潜入生活を続けることができたわけだが、その間のストレスは相当なもの……。また潜入した本人は、いつ化けの皮がはがされるかという恐怖心を常に持ち、死と隣り合わせの生活をしているわけだ。

そんな彼らと連絡をとり、指示を出す側も大変。もっとも、マフィアのボス、コストロはすべて自分の判断で自由に決断を下せるからまだいいが、マフィアの組織に誰を潜入させているのかを知っているのは自分だけという状況下で、警察官としての任務を遂行していく方もつらいはず。そう考えると、意外と人間の本質は正直で、本来ウソをつかない動物なのかも……？

スコセッシ監督とディカプリオのアカデミー賞は……？

マーティン・スコセッシ監督とレオナルド・ディカプリオの顔合わせは、『ヤング・オブ・ニューヨーク』（02年）と『アビエイター』（04年）に続く3度目。そして、過去2度とも惜しいところで逃した（？）アカデミー賞の作品賞・監督賞をマーティン・スコセッシ監督が、主演男優賞をレオナルド・ディカプリオが、「3度目の正直」とばかりに狙っていることは明らか……。しかし私の大胆予想では、多分今回もそれはムリ……。

第1に、作品賞・監督賞がムリだろうと思う理由は、たしかに本作はよくできた面白い映画だが、他にもクリント・イーストウッド監督の「硫黄島」2部作や2月17日に公開される『ドリームガールズ』などの秀作・話題作がたくさんあり、『ディパーテッド』がそれらに比べて飛び抜けた傑作とまでは言えないこと。そしてディカプリオの主演男優賞がムリな理由は、ディカプリオ、マット・デイモン、ジャック・ニコルソンの3人がほぼ同じウエイトで扱われているうえ、マッ

ト・デimonもジャック・ニコルソンも芸達者な面を十分に見せつけているから、ディカプリオだけが突出してはいないこと。むしろ、突出しているのはジャック・ニコルソンで、彼が助演男優賞を受賞する可能性は十分と思うほど、さすがに味のある演技を見せている。スコセッシ監督とディカプリオのためには、私のこんな予想が外れることを願っているが、さて私の大胆予想の結果は……？

これぞスコセッシ流！

『インファナル・アフェア』3部作は一大叙事詩であった『ゴッド・ファーザー』3部作（72、74、90年）ほどではないとしても、警察とマフィアの闘争を壮大なスケールで描いた感動作。しかしトニー・レオン演ずるマフィアへの潜入捜査官ヤンは、『パート1』で既に殉職させてしまったため（？）、『パート2』『パート3』ではその取り扱いが難しくなったのは当然。そこで『パート2』では若き日の2人の主人公の姿を描くという構想とした。また『パート3』ではアンディ・ラウ劉德華演ずる警察へ潜入したマフィアの男ラウと保安部ヨン警視との確執を大きなテーマとし、ヤンは回想シーンで数多く登場させるという工夫をこらした。しかして、『パート3』の結末のつけ方は……？ そんな『インファナル・アフェア』3部作との対比という興味をもってこのマーティン・スコセッシ監督の『ディパーテッド』を観ていると、そのラストは、まさにこれぞアメリカ流、これぞスコセッシ流！ というもの。

そして、これぞアメリカ流！

本作は2時間32分と長いが、衝撃のラスト20分に注目！ 潜入捜査の責任者クイーナン警部の死亡とマフィアのボス、コストロの死亡後、勝利の快感を味わっていたコリンだったが、長年のマフィアへの潜入に疲れ果てて警察に戻ってきたビリーによって、コリンこそが警察へ潜入したマフィアの男であったことが発覚。

しかして2人はビルの屋上で対決することになるのだが、その後、1人また1人と拳銃で撃たれて死んでいくシーンはまさに衝撃的！ もちろん、それをすべてここでネタばらしすることはできないので、そのサマはあなた自身の目でしっかりとそのシーンを確認してもらいたいもの……。 2007(平成19)年1月16日記